

ニュースクリップ & 映像教材

- 2004年（第51回）教育映像祭中央大会
 - 「2004年教育映像祭優秀映像教材選奨」入選作品
 - 平成16年度「子ども霞が関見学デー」実施
- 国立オリンピック記念青少年総合センター「研究紀要第5号」投稿原稿募集
- 東京国立近代美術館フィルムセンター「こども映画館」開催
- 「メディア・リテラシーの授業－学校教育におけるメディア教育入門－」ワークショップ開催
- 「第27回東京ビデオフェスティバル『TVF2005』」参加作品募集開始
- 「インターネット親子セーフティ講座」実施
- 「第16回兵庫県丹波篠山ビデオ大賞」参加作品募集開始

協会情報

■2004年（第51回）教育映像祭中央大会

（財）日本視聴覚教育協会は、毎年開催している教育映像祭中央大会を、今年度は下記の要領にて実施する。

〈日程および会場〉

◆夏休みこども映画フェア

平成16年8月26日（木）9:50～11:40 東京都千代田区公会堂にて

○上映作品「いのりの手」18分・学習研究社、「セロひきのゴーシュ」20分・学習研究社、「すばらしい私のおじいちゃん」35分・東映、「約束－アフリカ水と緑－」16分・桜映画社

参加希望者は、往復はがき（1人1枚）に、住所・氏名・TELを明記のうえ、8月13日（金）までに、〒105-0001東京都港区虎ノ門1-17-1視聴覚ビル

日本視聴覚教育協会宛、申し込みのこと。

◆「視聴覚教育功労者表彰」および「優秀映像教材選奨入選作品表彰」

平成16年8月27日（金）14:00より東京霞ヶ関・東海大学校友会館にて

主催者挨拶／文部科学大臣表彰／日本視聴覚教育協会会長表彰／文部科学大臣祝辞／謝辞（受賞者代表）

■「2004年教育映像祭優秀映像教材選奨」入選作品

本年度の標記選奨は、8社13作品の教育映画、34社131作品の教育ビデオ、8社16作品のコンピュータソフトウェア（CD-ROM）の参加作品を対象に審査が行われ、次のように入選作品が決まった。

映画の部

◆最優秀作品賞（文部科学大臣

賞）3作品

○社会教育部門（市民生活）「めばえの朝」41分／東映

○児童劇・動画部門（動画）「ひびけ！和だいこ」22分／東映

○教養部門「萩焼 十一代三輪休雪の鬼萩」37分／桜映画社

◆優秀作品賞6作品

[学校教育部門]

○小学校向（国語）「手紙」18分／学習研究社

○小学校向（道徳）「やさしいオオカミ」15分／アニメーション画房わ組

[社会教育部門]

○家庭生活「セツちゃん」34分／東映

○市民生活「断て!!思い込み運転－コミュニケーションギャップが事故を呼ぶ－」24分／東映 [児童劇・動画部門]

○動画「盲導犬クイールの一生」25分／ジャパンホームビデオ [教養部門]

○「螺鈿—北村昭斎のわざ—」
36分/日経映像

ビデオの部

◆最優秀作品賞（文部科学大臣賞）4作品

○学校教育部門小学校向（総合的な学習の時間）「プレゼント」17分/毎日映画社

○学校教育部門中学校向（美術）「色と形で伝えるビジュアル・コミュニケーションの時代」23分/桜映画社

○学校教育部門高等学校向（総合的な学習の時間）「川が教えてくれたもの—富士見高校の環境保護活動—」24分/桜映画社

○社会教育部門市民生活向「青少年のボランティア活動のすすめ—主体的育ちを支える推進者たち—」24分/リュック

◆優秀作品賞 32作品

[学校教育部門]

○小学校向（国語）「三年の書写—毛筆で文字を書こう—」20分/内田洋行

○小学校向（社会）「新しい学問と町人の文化」23分/学習研究社

○小学校向（社会）「スーパーマーケットを見てみよう」9分/東映

○小学校向（図画工作）「こんなのできたよ かいたりつくったりする新しい表現活動」21分/東映

○小学校向（特別活動）「知りたいことはなんだろう」20分/紀伊國屋書店

○小学校向（特別活動）「みんなでやろうよ 小学生のボランティア活動」20分/リュック

○小学校向（総合的な学習の時間）「今、子どもたちは…」21分/毎日映画社

○中学校向（国語）「徒然草」19分/サン・エデュケーショ

ナル

○中学校向（国語）「中学校書写 文字の表現 漢字」28分/内田洋行

○中学校向（理科）「ノーベル賞日本人科学者～創造の目—分子がえがく物質と生命—」35分/NHKソフトウェア

○中学校向（保健体育）「心はずむ！リズム運動」19分/学習研究社

○中学校向（特別活動）「ともに学び ともに生きる」33分/東京書籍

○中学校向（特別活動）「あした・きらりん」27分/テレコープ

○高等学校向（理科）「ノーベル賞日本人科学者～創造の目—粒子がむすぶマイクロと宇宙—」35分/NHKソフトウェア

○高等学校向（家庭）「食品をしっかりと選ぶ—表示についてもっと知ろう—」16分/NHKソフトウェア

○高等学校向（総合的な学習の時間）「言葉にならない言葉から—わたしたちのはじめの一步—」23分/毎日イーヴィアール・システム

○高等学校向（水産）「マグロ」32分/日本シネセル

[社会教育部門]

○家庭生活向「痴呆の早期発見・対応」28分/東京シネ・ビデオ

○家庭生活向「話す・聞く・考える 幼児は言葉をどのように身につけるか」18分/リュック

○市民生活向「大地震の恐怖 残された教訓—助け合いの輪が防災の力へ—」26分/映学社

○市民生活向「老いてこそ我が道をゆく みたらし団子」54分/放送映画製作所

○市民生活向「安全な自転車のルール」20分/ジャパンホー

ムビデオ

[職能教育部門]

○「事故事例に学ぶ日常点検のあり方 日常に潜む危険」20分/中日映画社

○「図書館を生かす 学校は変わる」37分/紀伊國屋書店

○「定置網の目合拡大」25分/テレビ朝日映像

○「よりどころを求めて—3歳児 前半—」38分/岩波映像

○「やりたい でも、できない—3歳児 後半—」35分/岩波映像

○「安全な静脈注射のために」27分/東京シネ・ビデオ

○「FIRST AID・ファーストエイド スポーツ現場における外傷の応急処置 前編」37分/桜映画社

[教養部門]

○教養部門「丸山眞男 響き続ける民主化への執拗低音」48分/紀伊國屋書店

○「白川静の世界—学問の道—」48分/紀伊國屋書店

○「不思議の星・地球」27分/イメージサイエンス

コンピュータソフトウェア (CD-ROM) の部

◆最優秀作品賞（文部科学大臣賞）2作品

○学校教育部門小学校向（総合的な学習の時間）「Junior Horizon Hi,English!」デジタル掛図1」Windows98.Me.NT.2000.XP/東京書籍

○学校教育部門中学校・高等学校向（社会）「シミュレーション！ 宅配便経営」Windows98SE.Me.2000.XP/アントルビーンス

◆優秀作品賞 5作品

[学校教育部門]

○小学校向（理科）「からだのたんけんVer.2」Windows98.Me.NT.2000.XP/東京書籍

○小学校向（総合的な学習の時間）「つたわるねっと@フレンド」Windows98.Me.NT.2000.XP／ジャストシステム

○中学校・高等学校向（理科）「学習映像ライブラリー 自然界のそうじ屋さん」Windows98SE.Me.NT.2000.XP／NHKソフトウェア

○中学校・高等学校向（社会）「Green Map III」Windows98.Me.NT.2000.XP／東京書籍
〔一般教養部門〕

○「第3巻 技術編 売上げ倍増産直デジカメ撮影術」Windows98.Windows98SE.Me.2000.XP／農山漁村文化協会

文部科学省情報

■平成16年度「子ども霞が関見学デー」実施

文部科学省では各府省庁の協力のもと、子どもたちに対し業務説明や職場見学などを行うことにより、親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とし、あわせて業務に対する理解を深めてもらうことを目的に、「子ども霞が関見学デー」を実施する。

〈時期〉

平成16年8月25日(水)・26日(木)

〈対象〉

全国の小・中学生（原則として保護者同伴）

〈内容〉

各府省庁(内閣府・文部科学省・総務省・財務省・警察庁他)ごとの特色を生かし、子どもたちを対象に、さまざまプログラムを設け、一斉に「子ども霞が関見学デー」として実施。当日は、子どもたちの興味にあわせて霞が関を自由に歩くことができるよう、参加者には各府

省庁等のプログラムと地図が入った「子ども見学パスポート」を配布し、併せてスタンプラリーを実施する。

〈参加申し込み〉

事前申し込みが必要なプログラムと、当日でも参加できるプログラムがあるので、詳細は文部科学省のホームページにて確認のこと。<http://www.mext.go.jp/>
〈問い合わせ先〉
各府省庁に直接問い合わせる。

AV情報

■国立オリンピック記念青少年総合センター「研究紀要第5号」投稿原稿募集

国立オリンピック記念青少年総合センターでは、青少年教育の振興に資するため、広く青少年教育関係者から青少年教育に関する理論や実践的な調査研究の成果を募り、その発表の場とすることを目的に、投稿原稿を下記の要領にて募集する。

〈テーマ〉

「青少年教育」に関するもの。近年、青少年教育においてその重要性が指摘されている以下のテーマに関する原稿。

- ・「青少年の体験活動（自然体験、奉仕体験、職業や仕事の体験、交流体験など）」
- ・「子どもの居場所づくり」（放課後や週末に学校の校庭や教室等を開放する活動、学校を活用して行うさまざまな体験活動、体験活動指導者の派遣、学校と地域社会・企業との連携など）
- ・「青少年と家庭教育」（家庭教育に関する学習機会の提供、家庭教育を活性化するための活動、家庭教育に関する特色ある活動、家庭を社会で支援する環境づくりに関することなど）

〈投稿原稿の種類〉

「青少年教育」に関する論文（研究ノートを含む）、報告（調査報告、実践報告、事例紹介等）、資料（青少年教育に関する各種データ、情報等）

〈投稿の事前連絡〉

投稿を希望する方は、事前に「投稿原稿連絡票」（ホームページ等により入手）に必要事項を記入し、平成16年9月30日(木)までに下記の問い合わせ先まで送付し、投稿申込を行うこと。

〈原稿提出期限〉

平成16年10月28日(木)

〈掲載の採否〉

投稿原稿は、国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要委員会による査読を行い、掲載の採否を決定する。

〈発行予定〉

平成17年3月

〈問い合わせ先〉

独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター事業部事業課調査研究係

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

TEL 03-3467-7201

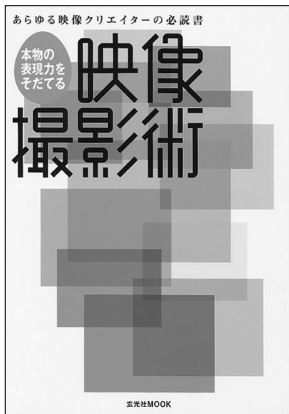
<http://www.nyc.go.jp/raise/cl.html>

■東京国立近代美術館フィルムセンター「こども映画館」開催

標記センターでは、子どもたちにテレビ等の家庭内視聴では得られない、大きなスクリーンによる本物の映画（フィルム）を楽しむ機会を提供し、優れた映画作品の鑑賞を通して、子どもたちの豊かな情操と高い映像理解能力（リテラシー）を育むことを目的に、夏休み期間中の毎週土曜日に映画を上映する。また、展示室では、アニメーション映画のもとになった造形作品を鑑賞できる。

〈会場〉

ブックレビュー


**「本物の表現力をそだてる
映像撮影術」**

益子広司著 玄光社 2004年6月刊
B5判 128頁 1,680円

地域で自作した映像をアーカイブ化して、社会教育や学校教育に役立てる動きが各地で始まっている。

本書は、あらゆる映像クリエイターの映像表現力を育てるために、映像づくりの基礎的な知識から、音声の生かし方、ショットの撮り方、効果的なカメラワーク、作り手が伝えたい意図を映像のモンタージュで構成する技術までを図解入りで具体的に解説している。

映像づくりで大切なことは、撮影の基礎知識を身につけることと並び、撮影の「心構え」を身につけることだと述べているのが印象的である。この「心構え」論は以下のショットの得方やカメラワークなどの具体的な撮影技術論を常に支えている。印象深いのは、第2章の「音

と、第3章の完成度の高いショットづくりの「光」、第5章の「モンタージュ」で、冒頭で述べた地域での映像づくりに必ず役に立つと思われる。

とくに「音」に関しては優れた映像を撮影される方が多いのに、映像と音声の相乗効果についてあまり配慮がされていないのを残念に思っただけに、わが意を得た思いがする。

また、撮影に当たっても、ショットの組み立て等のモンタージュの効果を考えながら撮ることが、制作者の意図を伝えるためにも重要だとの解説は説得力がある。

誰もが映像クリエイターとして映像をつくる時代である。本書は映像による表現力を高めるため大いに役立つ一冊である。
(松田寛)

東京国立近代美術館 フィルム
センター大ホール（2階） 展
示室（7階）

東京都中央区京橋3-7-6
〈プログラム〉

【8月7日 10:30～】

- モチモチの木（17分）
- 南無一病息災（18分）
- 水のたね（19分）

【8月14日 10:30～】

- あれはだれ？（21分）
- ちからばなし（11分）
- 虹に向かって（18分）

【8月21日 10:30～】

- 鬼がくれ山のソバの花（24分）
- 白い象（23分）

【8月28日 10:30～】

- おこんじょうり（26分）
 - 注文の多い料理店（19分）
- 〈料金〉

小・中学生100円／幼児（未就
学児童）無料／引率者500円
〈問い合わせ先〉

東京国立近代美術館フィルム

センター 〒104-0031 東京都
中央区京橋3-7-6
TEL 03-5777-8600（ハロダイヤル）
<http://www.momat.go.jp/>

研究会情報

■「メディア・リテラシーの授業—学校教育におけるメディア教育入門—」ワークショップ開催

（独）メディア教育開発センターでは、大学の学部教育の内容として、テレビや映画等のメディアが提示する表現や内容を学生が批判的・自覚的に受容することを目指す「メディア教育」（media education、メディア・リテラシーの教育）を提案すべく、イギリスの公開大学と英国映画機関が共同で開発した教材パッケージ、「メディア教育入門」（Media Education: An Introduction, 1992）を用いて、参加者がこの教材を実際に体験

する形で吟味するワークショップを開催する。

〈開催期日〉

平成16年9月9日（木）・10
日（金）

〈会場〉

（独）メディア教育開発センター
研究棟2F第1・2会議室

〈対象〉

メディア・リテラシー、マスコ
ミュニケーション研究、メディア
研究、視聴覚教育、あるいは
教師教育（社会、国語、英語、
美術等）を担当し、教養教育と
してのメディア教育に関心を持
つ方。

〈内容〉

【9月9日（木）】

○パネルディスカッション：
「学校教育におけるメディア教育
の実践」

○ワークショップ：「メディア
教育入門」への導入

○講師：大西誠（愛知淑徳大学

日本ビクター（株）は、教育向け機器として初めてリアルタイム処理の話速変換機能を搭載するとともに、従来のLL（Language Learning）システムのように操作が簡単な、フルデジタル&ネットワーク対応の授業支援CALLシステム“WeLL（ウェル）”を8月下旬に発売する。

この“WeLL”は、映像・音声・PC画面の信号をすべてネットワークでデジタル伝送し、英語を中心とした外国語教育にいちそう力を入れる大学・文教市場や、業務に必要な外国語コミュニケーション能力の向上を目指す企業向けに開発された。

〈主な特長〉

- ①リアルタイム処理の話速変換機能（ゆっくり再生）を搭載。話し始めの速度を落とし、徐々に実際の速度に戻す独自の

ハードウェア



フルデジタル&ネットワーク 対応の授業支援システム 「WeLL」

〈問い合わせ〉
日本ビクター（株）
システム営業本部
ソリューション事業センター
TEL 03-3663-9055
<http://www.jvc-victor.co.jp/>

の技術により、言葉を聞き取りやすくすることに成功。

- ②LANケーブル1本で、音声・映像・PC画面のすべてを伝送。映像伝送には、ストリーミング環境下でのパフォーマンスを重視したMPEG-4を採用し、教室内での一斉配信が可能。また、教員・学習者のPC画面を高画質・高フレームレートでリアルタイムに送受信する機能も搭載し、コンピュータを介した操作サポートや教材提示用途で使用できる。
- ③従来のLLシステムに近い簡単な操作性と、各種会話練習の機能をソフトウェアで実現。タッチスクリーン操作も可能な大画面・大型ボタンの採用と、操作ステップの簡略化により、コンピュータに不慣れでもすぐに操作できる。

教授）／三宅正太郎（福山大学教授）／岡部昌樹（金沢星稜大学教授）／佐賀啓男（メディア教育開発センター教授）／広瀬洋子（メディア教育開発センター助教授）

【9月10日（金）】

○個別実習：「メディア・テキスト制作の実際的課題」

○グループ実習：「メディア・テキスト分析の2つの課題」

○報告と討論：「教材の意義と利用上の課題について」

○講師：佐賀啓男（メディア教育開発センター教授）／広瀬洋子（メディア教育開発センター助教授）

〈参加申し込み〉

平成16年9月3日（金）までに、同センターのホームページから申し込む。先着15名。

http://www.nime.ac.jp/KENSYU/kensyu_h16/009/main.html

〈問い合わせ先〉

（独）メディア教育開発センター
普及促進部教育支援課研修部門
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-12

TEL 043-298-3125

<http://www.nime.ac.jp>

コンクール情報

■「第27回東京ビデオフェスティバル『TVF2005』」参加作品募集開始

日本ビクター（株）は、メッセージの発信、情報の伝達、芸術的表現の追求など多彩な可能性を持つビデオソフトの制作振興をめざし、標記フェスティバルを開催する。

当フェスティバルは、“より多くの人々が参加できる市民ビデオ映像の祭典”をコンセプトにビデオソフト制作の活性化と視聴機会の拡大による映像文化向上への貢献を目指しており、これまで寄せられた作品は4万本

を超えた。これらは、時代を映す鏡として、貴重な映像アーカイブとなっている。今回は、デジタル技術の発達やインターネットの普及により、コミュニケーション手段が多様化する中で、マスメディアと違ったユニークな発想・手法を用いた作品や“私はこう考える”といった個人的メッセージ、社会問題など、幅広いテーマの作品を広く募集する。

〈作品募集締め切り〉

平成16年9月30日（木）

〈募集作品〉

20分以内のビデオ作品（ミニDV、VHS/S-VHS/D-VHS）

〈テーマ・題材〉

題材を問わず自由に、“私はこう考える”といった個人的なメッセージ作品をはじめ新しい使い方、ユニークな活用、新しい用途など形式にとらわれない作品を募集。

〈賞〉

○ビデオ大賞（1作品・50万円）

○日本ビクター大賞（1作品・40万円）

○優秀作品賞（30作品・10万円）

○佳作（70作品）等

〈発表・表彰式〉

平成17年2月19日（土）を予定

〈優秀作品の公開上映〉

発表・表彰式に先立ち、優秀作品の公開上映会を平成17年1月中旬から、東京都港区新橋ビクタービルにて開催予定。

〈応募・問い合わせ先〉

日本ビクター（株）東京ビデオフェスティバル事務局

〒105-0004 東京都港区新橋1-7-1 ビクタービル3F

TEL 03-3289-2815

<http://www.victor.co.jp/tvf/>

地域の情報

■「インターネット親子サーフティ講座」実施

東京都教育委員会では、都立高校のITを活用した教育推進校およびIT教育普及支援校が連携し標記講座を実施する。

〈対象〉

インターネットや電子メールを使っている小学生とその保護者（各実施校40人程度）

〈指導者〉

ITを活用した教育推進校およびIT教育普及支援校の教科「情報」の教員

〈内容〉

インターネットや電子メールを使うときに「気をつけたいこと」などを、実際にコンピュータを使いながら親子で楽しく学ぶ。
〈実施校および実施日時〉

①都立光丘高校：8月16日（月）9:30 ②都立江戸川高校：8月24日（火）14:00 ③都立駒場高校：8月26日（木）

9:30 ④都立町田高校：8月27日（金）14:00 *所要時間は各校いずれも2時間

〈申し込み〉

実施日の1週間前までに各実施校にFAXで申し込む。申込書・各校ファックス番号は東京都教育委員会HPからダウンロードのこと。（参加費無料）

〈その他〉

上記の他、下記都立高校のIT教育普及支援校は、2学期以降に中学校からの出前授業等の実施希望に対応する。詳細は、下記問い合わせ先まで。

蒲田高校／広尾高校／千歳丘高校／竹早高校／東大和高校／福生高校／東村山高校

〈問い合わせ先〉

東京都教育庁指導部指導企画課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

TEL 03-5320-6836（内53-734）

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>

■「第16回兵庫県丹波篠山ビデオ大賞」参加作品募集開始

丹波篠山ビデオ大賞実行委員会では、標記コンテストの参加作品の募集を開始した。

〈部門別テーマ〉

◆規定部門（各8分以内）

①「いっしょに生きる」

家族、恋人、愛犬、自然など…。作者にとってかけがえないパートナーとの関係を通して作者の生き方を描く。

②「心のふるさと」

人生の拠り所となっている「心のふるさと」への思いを綴る。

③「私が見つけた丹波篠山」

単なる風景映像や観光記録ではなく、作者の視点で見た丹波篠山の未知なる部分を描く。

◆メッセージ部門

①「わが街自慢」（3分程度）

作者が住む街の特色や特産物

を紹介する。名物、特色、企業、活動など素材は自由。

②「私の学校紹介」（3分程度）

学校の校歌をバックミュージックとして利用し、学校の特色や歌詞に合った映像を学校紹介風にまとめたビデオを募集。

③ビデオだより（30秒～1分）

故郷の両親や、離れて生活している子どもへなどに今、伝えたいメッセージを紹介する。

〈応募条件〉

DV・DVCAM・DVD・VHS（S-VHSを含む）のビデオのいずれかにて制作／1テーマにつき2作品まで／他のコンクールで入選以上の賞に該当していないこと／他のコンクールに出品中ではないこと等

〈応募締め切り〉

平成16年11月30日（火）

〈応募・問い合わせ先〉

丹波篠山ビデオ大賞実行委員会事務局
〒669-2206 兵庫県篠山市西吹88-1 篠山市視聴覚ライブラリー内

TEL 079-590-1301

<http://edu.city.sasayama.hyogo.jp/videocon>

短 信

■映機工業（株）は8月2日付にて東京支社を移転した。

（新住所）〒135-0042 東京都江東区木場3-14-4 はが木場3ビル2階

TEL 03-5621-3051

FAX 03-5621-3057

訃 報

本年度全国視聴覚教育連盟副会長に就任された、岡田敏氏（茨城県視聴覚教育振興会会長）は、去る7月10日逝去された。享年71歳。後任副会長には同振興会后任会長の吉川刀夫氏が就任。